



浜松アーツ&クリエイションでは、浜松市内で文化芸術活動に関わる方々にお話を伺っています。今月号は、「場づくり」をテーマに、様々な視点から活動を行っている方々にスポットを当て紹介します。今後も、News Letterでは、様々な分野を切り口として魅力的な活動を紹介していきます。

次回の特集もお楽しみに！

いもほり 代表 山田恵美莉さん

天竜区を拠点に、子どもや親御さんの居場所づくりを目的に活動を行う「いもほり」。その活動は、子どもを中心として地域へ広がりをみせています。

ー親子のための秘密基地

活動の1つは、「森の秘密基地 いもほり」と題して、草花が多い茂った耕作放棄地を活用して、0から秘密基地づくりを通じた自然体験活動を定期的に行っています。私が中山間地域で毎日自然に触れて育ってきた経験や、自然との触れ合いを大切にしている保育園に勤めた経験から、豊かな心や生きる力を育むことを実感しました。その自然と関わり合える体験を今の子どもたちに届けたいとの想いで活動が始まりました。基地の整備から始まったこの活動は、今では基地の周りにある木や竹、草花を材料に、ナタで竹を割るところから流しそうめんを行ったり、自然にあるものを加工したおもちゃや楽器づくり、ピザ窯からつくるピザ焼き体験など、多岐に渡ります。また、地域の方々がイベントの際にお手伝いとして参加してくださったり、様子を見にきてくださったりと、参加者と地域の方々との関わりが生まれたことで新たなコミュニティが出来上がっていくことに、期待が高まります。



ー子育ての手を休められるような場所

もう1つの活動は、「みんなのアトリエ いもほり」です。天竜区二俣町にある元現金屋（青果店）をリノベーションし作り上げた、子育てを応援するコミュニティースペースです。保育士を在中させることで、子どもたちが遊び場であそんでいる間に親御さんが、カウンターデスクや座卓、ソファー席でのおしゃべりや、読書や勉強、仕事などに取り組める環境を作りました。イベントやワークショップ、講座も定期的に開き繋がりの場を目指しています。2023年1月9日からスタートし、まだまだ試運転の状態ですが、より多くの人の憩いの場となるよう、皆様の声を取り入れながら改良していきたいと思います。



ーさつまいもの「ツル」のように

活動を通じて、天竜区の関係人口を増やす取り組みをさらに発展させていきたいです。取り組みの名称である「いもほり」には、さつまいものツルから連なって大小凹凸様々なお芋ができるように、私たちが「ツル」となって、世代や業種など関係なく繋がり合える場をつくっていきたいという想いが込められています。世代を超えて触れ合いかが、知恵や歴史、伝統を知るきっかけになったり、元気をもらえる場となったり、時には助け合える場になったり。そんな場づくりを積み重ねていきたいと思います。

著:A&C県

人と人を繋げる場所づくりをしている人
イベントコーディネーター

趣味のカメラ撮影のため、仕事休みに色々な地域のイベントに行く中でライブペイントアーティストSORAさんとひょんなことから知り合い、共に活動するようになります。



©ひとつちゃん

お二人が始めたのは土地のご縁も重なって、天竜春野町での子供向けのワークショップやパフォーマンスイベント。加藤さんが運営、SORAさんはアーティストとして子供たちに表現の楽しみを与え、自己表現をするといった理想的な分業です。やりたいことの価値観も合い、方向性が自然に交わった、イベントにおいてとてもバランスの取れた関係性です。

ー加藤さんに想いをたずねてみました。

子供たちには小さいころからいろんなものに触れる機会があつたらしいなと思います。アートというと敷居が高いのでもっと入り口を広く、敷居を下げて学校ではできないことを楽しんでもらえたら。アートは自分の気持ちや表現ができるツールの一つとして誰でも気軽に楽しむことができるのだと思います。いろんな子がいてお互いに認め合って感性を育ててくれたら嬉しいです。やっているうちに居場所づくりというテーマが見えてきました。

ー実行に移すのは容易いことではないですが、お話を伺ってみて、印象的な言葉をいくつか拾ってみました。

イベントって人と人を繋げてくれます。楽しくてみんなが繋がれたらいいなと思うくらいのゆるい感じで企画しています。来週やる?くらいのノリと勢いで、集客よりもイベントに共感する方が

加藤仁士(ヒトシ)

来てくれたなら、小さくてもできることから楽しんでやっています。一人で抱えるより、互いに補完し合えるようなペアがいるとイベント力があがります。作品を売る、芸術性を高める、ワークショップなど直接関わってもらうことのバランスを考え、企画しています。



©ひとつちゃん

ー加藤さんに今後の抱負を聞いてみました。

昔あった駄菓子屋のように学校が終わった後に子供たちだけで行く居場所を作れたらいいなと思っています。イベントでも高校生くらいの世代に関わってもらい、大人とおしゃべりしながらお手伝いという名の社会勉強もできる機会をつくれたらなと思っています。

今年4月に春野町ふれあい公園でのアートイベントを企画されているそうです。なにやら浜松で新しいことが始まる予感。たのしげな臭いでぶんぶんです。



著:A&C島田

puspus byZING

2022年11月浜松市の中心部に程近い、成子町に「puspus byZING」という印刷物制作スタジオが誕生しました。

「puspus byZING」(以下puspus)は、浜松を中心に音楽活動をする「マッスルNTT」こと吉田朝麻さんと、アーティストすずさんの2人によって運営されています。puspusでは、リソグラフを使用した印刷物の制作や、ZINE(オリジナル小冊子)の制作、シルクスクリーン印刷、缶バッジ制作等の制作ができます。



吉田さんはかつて、アメリカに3ヶ月間の滞在中の際、ZINE制作場所の調査をしにオレゴン州のポートランドにある自主出版コミュニティースペースであるIndependent Publishing Resource Center(以下IPRC)を訪れた事があり、浜松にもIPRCのような場があればという思いがpuspusの立ち上げのきっかけになっています。ないものは、自分で作ってしまえばいいというのは、ZINEにも通じるDIY精神。puspusを立ち上げるにあたっては、場所にもこだわりがありました。

前述のIPRCのあるポートランドでは、街の中にトラムが走って

いて(都心部は無料で利用可)歩行者や自転車に優しい街づくりになっています。そんな街づくりをしているからこそ根付く文化があると考え、浜松駅から徒歩圏内の場所での立ち上げとなりました。リソグラフを利用したイベントの広報のためのチラシやフライヤーから、当日のノベルティや缶バッジ・トートバッグ・Tシャツなどのオリジナルグッズ制作まで自宅にプリンターがなくてもここに来れば、楽しながら制作できちゃいます。

著:A&C大谷



puspus byZING

月曜日・土曜日と第1・3日曜日の10:00~17:00で営業中。
基本的には印刷物の制作スタジオですが、一角にはグッズや吉田さんがコレクションしたZINEの展示コーナーもありますので、制作のインスピレーションにしたり、眺めたりするだけでも楽しめます。
月に一回程度イベントやZINE作りやタブロイド制作ワークショップも開催しているので、SNSやブログをチェック！



Instagram
@puspus_byzing



Twitter
@zing_hmmt



ブログ

(フルート奏者) の視点

突然ですが、皆さんは「牧神の午後への前奏曲」という曲をご存じでしょうか。ドビュッシーが作曲した管弦楽曲で、なめらかで美しく幻想的な曲です。曲の冒頭には、昼下がりに夢の世界へ誘うようなフルートの息の長いソロがあります。私も大好きな曲ですが、フルート奏者にとってはこれがなかなか大変だったりします。

フルートを演奏する上で、息は最も大切な役割を担っています。管楽器なので息を使うのは当たり前の事なのですが、フルートは息を入れ込む穴(歌口と言います。)を口で全て塞がないため、半分ほど息が外に出ています。そのため他の管楽器と比べ、音を出すのにより多くの息を必要とします。可愛らしいイメージの楽器ですが、実は逞しくもあります。

そんな魅力的な楽器に出会って18年が経ちましたが、吹くたびに

フルートの音色の魅力に取り憑かれ、もっといい音を出す事、さらにその先の“聴く人の心をつかむ何か”を表現する事を日々追求しています。

今回、フルートのあまり知られていない特徴についてお伝えしましたが、音楽というものは、文字だけではお伝えしきれません。聴いていただきこそ、フルートの魅力をもっとお伝えできると思うので、皆さんのが演奏会へ足を運ぶきっかけとなってくれたら嬉しいです。



北畠 志保 *Shihoko Kitabatake*

1994年生まれ。浜松市西区出身。10歳からフルートを始める。浜松学芸高校音楽課程卒業。国立音楽大学卒業後、静岡県内を中心に演奏活動を行う傍ら後進の指導にあたる。ジュニアオーケストラ浜松卒団生。第14回静岡県フルートコンクール第1位受賞。

今号の表紙



生熊奈央 profile

《略歴》

1988年静岡県浜松市出身

日本版画協会 会員

2013年多摩美術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻版画研究領域 修了

2011年より東京、大阪、京都で多数個展開催

《賞歴》

2013年第81回日本版画協会版画展 新人賞 受賞

2016年第84回日本版画協会版画展 B部門奨励賞 受賞

2019年アワガミ国際ミニプリント展 審査員賞(三木哲雄賞) 受賞

2019年第87回日本版画協会版画展 準会員佳作賞 受賞

制作者

生熊奈央
(銅版画家)

表紙テーマ

密度

《その他》

2007年にホラー漫画家として商業誌デビュー。現在はほぼ活動停止中。

作品制作にあたって

私は普段銅版画で作品を制作しており今回の表紙絵も銅版画です。銅版画、聞き馴染みのない技法ですよね。1番身近な銅版画はお札の肖像画で、原画は刃物で直接銅を彫る「エングレービング」と呼ばれる技法で描かれています。私は「エッチング」と呼ばれる薬品を使う技法を用いています。絵を描くにあたっての手順の話になりますが、私は下絵を描かず即興で絵を描くことが多いです。ここにはこのモチーフ、ここにこれを置いて目線の流れを作って…とその場その場で決めながら絵を描いていると思わぬ形が生まれたりすることが多く、その偶然性を楽しんでいます。そして今回もそのように描き進めよく分からない形が生まれました。両サイドに顔がありますが、ここは最後まで何にするか悩みました。

テーマ選定理由

しばらく目を凝らして見入ってしまうこの作品は、無数の線が幾度となく描かれ、モノクロで印刷された銅版画の中に、独特の繊細さと密度を生み出しています。この作品に描かれる密度の高さも、人の心を揺さぶる1つの要素かもしれません。唯一無二の世界感をお楽しみください。
(浜松アーツ&クリエイション事務局)